

「屯田北中」にヒートポンプ

札幌市は北区屯田九の四に新設する屯田北地区中(仮称)に、新エネルギーとして注目されている地中熱ヒートポンプを利用した暖房施設を一部で導入する。暖房効果などを検証し、他の

来年3月完成

公共施設への導入するための基礎資料とする。

地中熱ヒートポンプは地中に管を埋

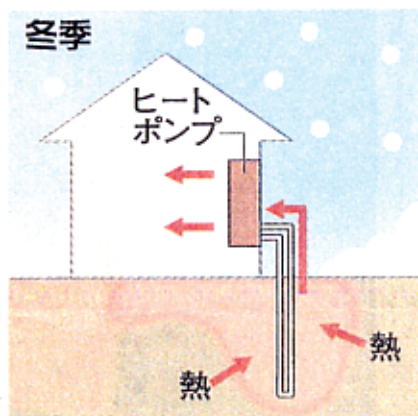
省エネ狙い

め、管を通る不凍液が奪った地中の熱を地上の装置で集めて冷暖房に利用する。原理はエアコンと同じだが、石油などの化石燃料を使う必要がないため、省エネや二酸化炭素の削減につながる利点がある。また、地中は常に一〇一二度あるため、冬の厳しい北海道でも安定した熱エネルギーを得ることができ、道内でも一部の事業所や個人宅で地中熱ヒートポンプを設置する人が出てきている。

同中は鉄筋コンクリート三階建てで延べ床面積は約七千平方メートル。今月着工し、来年三月に完成予定。地中熱ヒートポンプ設備としては、地中に百メートルの管を埋める。

暖房能力が七キロワットと限られているため一教室に導入し、採熱量や消費量を測定する。校内には採熱量などを表示する装置を設置し、環境教育に活用する。総事業費は七百万円で、国から半分補助される。

校内に「量」表示



市は「集まったデータを分析し、地区センターなど小規模な公共施設で導入できないか検討したい」と話している。(須藤幸恵)